

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	愛媛県	学校名	愛媛県立宇和高等学校		
人権課題	子供	対象学年・ 取り扱った教科等	高校2・3年生 保育基礎・子どもの発達と保育	時数等	4時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・園児との交流を通して、一人ひとりの子どものよさを理解し尊重する気持ちを深めさせる。 ・子どもたちに寄り添って、遊んだり、話したり、手伝ったりすることで、自分の役割や能力を実感させ、自信ややりがいを感じさせる。 				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ○訪問の目的の確認及び準備（1時間） ○うわまち未来こども園訪問（1時間×2回） <ul style="list-style-type: none"> ・園庭や教室で園児と一緒に遊ぶ、本の読み聞かせを行う、昼食の様子を見学する。 ・季節に合った壁飾りを作ったり、手作りおもちゃをプレゼントしたりする。 ○交流の振り返りと成果・課題の共有（1時間） 				
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問を2回設定した。1回目の訪問では、園児との遊びを中心に、一緒に過ごす喜びや楽しさを実感できるようにした。また、「2回目に手作りおもちゃをプレゼントする」という目的意識を持たせ、相手のことを具体的に想像しながらおもちゃを製作するようにした。 ・事前指導では、子どもと接する際の注意点について確認し、子どもの様子や教室の様子等観察するポイントを確認した。 ・訪問後は感想を共有することにより、各自の学びを深めるようにする。また、授業と関連がある場面を振り返り、学習と体験が結びつくようにした。 				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

国語科の「現代の国語」の授業において、リフレーミングを含むコミュニケーションの手法について学んだ。

事業成果

- ・ 知識的側面：「子どもの健やかな発達を促すための保育の必要性と意義について理解している」
【生徒変容の分析】
「年中クラスでは、給食の時に幼児の発達に応じて道具を使い分け食べていた」という感想から、教科書での学習に加え、保育交流を取り入れたことで発育に応じた適切な保育の在り方や必要性について実感を伴って理解することができた。
- ・ 価値・態度的側面：「保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができる」
【生徒変容の分析】
こども園を訪問し、幼児との交流を行うことで自分自身の保育活動が幼児に与える影響を実感し、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができた。
- ・ 技能的側面：「保育に関心をもち、保育に必要な技能を習得している」
【生徒変容の分析】
こども園を訪問するまでは、保育への関心の高さには個人差が大きかった。しかし、訪問後は「あの子どもたちに喜んでもらいたい」という思いが強くなったことにより、全員の保育への関心の高まりが見られた。また、幼児の目線に合わせる行動を取ったり、幼児の思いを引き出す声掛けも見られたりした。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	愛媛県		学校名	愛媛県立宇和高等学校	
人権課題	女性	対象学年・ 取り扱った教科等	高校2年生・ ホームルーム活動	時数等	3時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・「水平社宣言」の意義を理解させる。 ・被差別部落出身の女性が何重もの差別を受ける中で立ち上がったことを理解させる。 ・あらゆる人の人権が保障される社会を実現するために自分にできることを考えさせる。 				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「解放令」が出された後も残った差別の実態や原因と、全国水平社創立までの経緯を確認する。（1時間） ・全国水平社大会創立宣言を読み、内容と意義を理解する。（1時間） ・被差別部落の女性が置かれていた状況と女性による水平社運動について学習し、あらゆる人の人権が保障される社会を実現するために自分にできることを考える。（1時間） 				
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・全国水平社大会創立宣言を女性の視点から扱った。 ・被差別部落出身の女性が記した資料を提示することで、二重三重の差別に苦しめられてきた女性たちの差別解消への熱い思いをより共感的に受け止めさせようとした。 ・被差別部落出身の女性が、差別に負けず自分たちの力で差別解消に向けて立ち上がった意義を考えることを通して、あらゆる人の人権が保障される社会を実現するために自分にできることを考えさせた。 				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

地歴公民科の「日本史探究」で、近代の女性の状況について学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：「女性をめぐる人権課題について知っている」
事業開始時：59% → 事業終了間際：88%
【生徒変容の分析】
近代日本社会における、女性に対する人権課題への理解が深まった。
- ・ 価値・態度的側面：「人権問題を解消するために行動しようと思う」
事業開始時：47% → 事業終了間際：59%
【生徒変容の分析】
被差別部落出身の女性が記した文章を読み、彼女たちの思いを共感的に受け止め、自らの在り方や生き方を考えようとする態度が見られた。
- ・ 技能的側面：「一つの情報だけで物事を判断せず、様々な情報をもとに、公平に結論を出すことができる」
事業開始時：59% → 事業終了間際：71%
【生徒変容の分析】
水平社運動を女性の視点から学習することを通して、物事を多角的に捉えようとする姿勢が身に付いた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	愛媛県		学校名	愛媛県立宇和高等学校	
人権課題	障害者	対象学年・ 取り扱った教科等	高校3年生・数学	時数等	1時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすを利用しやすい坂道の傾斜角度やデザインについて考察させ、人権感覚を高めさせる。 ・ユニバーサルデザインの観点を取り入れる意識や態度を養う。 				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・記数法のユニバーサルデザインについて考える。 ・傾斜角度と水平距離、垂直距離の関係について考える。 ・車いすを利用しやすい坂道のデザインを考える。 ・ユニバーサルデザインを取り入れた坂道を考える。 				
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・紙幣の変遷等を提示し、記数法において、アラビア数字がユニバーサルデザインであることを理解させた。 ・実際に坂道を車いすを利用して上らせたり、校内の様々な坂道を事例にあげ、車いす利用者の立場にたって課題解決に取り組ませた。 ・計算が複雑にならないよう、適切な数値で問題を出した。 ・車いすを利用できる坂道の傾斜角度を意識させつつ、現実的な坂道のデザインを考察させるとともに、誰にとっても使いやすい（ユニバーサルデザイン）の坂道について考察させた。 				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

ホームルーム活動との関連を図り、学校内の坂道で車いすの体験活動を行った。

事業成果

- ・ 知識的側面：「世界には様々な人権問題があることを知っていますか」
事業開始時：89.7%⇒事業終了間際：97%
- ・ 価値・態度的側面：「人権問題を解消するために行動しようと思いますか」
事業開始時：70.6%⇒事業終了間際：88%
【生徒変容の分析】
坂道のユニバーサルデザインの考察を通して、日常のデザインやバリアを意識する姿勢が見られるようになった。
- ・ 技能的側面：「人が困っているときは、進んで助けていますか」
事業開始時：80.9%⇒事業終了間際：92.6%
【生徒変容の分析】
授業を通して、障害の有無に関わらず、それぞれの人の困りごとに気付くことができるようになり、生徒同士で気遣い、配慮する姿勢が見られるようになった。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	愛媛県	学校名	愛媛県立宇和高等学校		
人権課題	同和問題	対象学年・ 取り扱った教科等	高校2年生・ ホームルーム活動	時数等	6時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・人権獲得の歴史を学び、差別からの解放を求めて闘ってきた先人の生き様に学びつつ、自分たち一人一人が差別解消の担い手になることを認識させる。 ・差別は「差別する側の問題」であると気づき、誰もが生きやすい社会のために、今自分にできることを考え、自分のこととして人権課題に向き合う姿勢を身に付けさせる。 				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・差別の起こりと差別が強化された過程を学習することを通して、部落差別の不合理性について意見交換する。（2時間） ・全国水平社創立大会宣言から、あらゆる人間の平等と差別からの解放について考える。（2時間） ・映画「破戒」を鑑賞する。（2時間） 				
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・活動時の座席を馬蹄形にし、生徒同士が互いの顔を見ながら、クラス全員で意見を深め合えるようにした。 ・賤称語の扱いについては、『人間の輪』（愛媛県人権教育協議会編）に基づいて指導し、提示資料・配布資料には掲載しなかった。 ・映画「破戒」を鑑賞後、3人の主要人物それぞれの立場になって考え、感想を書かせた。 ・事前にショートホームルーム活動等の時間を活用し、水平社創立百周年や自由や平等に関する新聞記事などを用いて生徒の意識を高めるとともに、その意見を教室に掲示して共通理解を深めた。 				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

国語科の授業において、命の尊厳や基本的人権について学習した際には、ホームルーム活動で目標とした「誰もが生きやすい社会のために、今自分にできることを考え、自分のこととして人権課題に向き合う」ことを意識させながら学習を行った。

事業成果

知的側面	①世界には、様々な人権課題があることを知っている。
	②同和問題について知っている。
	③すべての人が大切にされなくてはならない。
	④様々な考えを持つ人と暮らしていることを理解している。

「はい」と答えた割合

事業開始時	① 75%	→	事業終了間際	95.2%
	② 15%	→	〃	76.2%
	③ 75%	→	〃	76.2%
	④ 75%	→	〃	90.5%

【生徒変容の分析】

「どちらかといえば、はい」も含めると、①②④は100%になる。学習の積み重ねにより「知っている」「理解している」と自信を持って言える生徒が増えた。

価値・態度的側面	⑤人権問題を解消するために行動しようと思う。
	⑥差別を許さない態度を身に付けている。
	⑦様々な価値観を尊重しようとする態度を身に付けている。

事業開始時	⑤ 30%	→	事業終了間際	61.9%
	⑥ 60%	→	〃	90.5%
	⑦ 60%	→	〃	90.5%

【生徒変容の分析】

行動することへの自信のない生徒が多いが、差別を許さない態度の大切さを理解している様子が見えた。

技能的側面	⑧相手の立場に立って物事を考えることがある。
	⑨話し合いのとき、友人の話や意見を最後まで聞くことができる。
	⑩うわさやSNSの情報などだけで判断せず、公平な考えを持つことができる。

事業開始時	⑧ 60%	→	事業終了間際	76.2%
	⑨ 75%	→	〃	85.7%
	⑩ 55%	→	〃	76.2%

【生徒変容の分析】

「聞く」スキルの向上は、他者を尊重する態度につながった。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	愛媛県	学校名	愛媛県立宇和高等学校
人権課題	外国人	対象学年・ 取り扱った教科等	高校1年生・ ホームルーム活動及び 英語コミュニケーションI
時数等	16時間		
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 異文化に対する知識不足や無意識の思い込みが差別を生む可能性があることに気づき、自他共に認め合うことができる人権感覚を身に付けさせる。 豊かな共生社会の実現に必要な考え方や生き方を身に付けさせ、自分たちにできることを考えさせる。 		
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> 「アンコンシャス・バイアス」について理解を深め、外国の習慣やマナーについて自分たちで調べたことをプレゼンテーション形式で発表し、諸外国の多様な文化、習慣、価値観等への理解を深めた。（1時間） 難民についての英文を読み、難民や移住者についての理解を深めた。また、今年度より本校配置となったALTの日本における困難さを理解し、その解決のために自分たちにできることを考え、英語でスピーチを行った。（15時間） 		
工夫した点	<p>(指導上の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語の授業とホームルーム活動の授業において、外国人の人権問題について考えさせる際に、それぞれの授業での学びを生かして、全ての人により良く生活することのできる共生社会の実現に向けて、自分たちにできることを考えることができるように工夫した。 <p>(地域や関係機関との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度より本校に配置になったALTから直接日本で暮らす際の困難さについての体験を聞くことで、自分事として捉えさせるようにした。 		

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

英語科の授業で、障害者や外国人のLessonを扱い、関連付けて学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：「様々な文化的背景や考えを持つ人々と暮らしていることを理解している」
事業開始時：1.5 → 事業終了間際：1.2
【生徒変容の分析】
ALTから外国で暮らす困難さを具体的に聞いたことで、様々な違いを実感的に理解できた。
- ・ 価値・態度的側面：「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあると思う」
事業開始時：2.0 → 事業終了間際：1.7
【生徒変容の分析】
ALTの困難さを具体的に解決する方法を考え、英語でスピーチするという課題解決学習に取り組んだことで人権問題を自分事として捉え、自分に何ができるのか考えるようになった。
- ・ 技能的側面：「自分と異なる価値観を持つ人に対しても自分から関わるができると思う」
事業開始時：1.5 → 事業終了間際：1.3
【生徒変容の分析】
外国人への偏見や差別に気付き、「やさしい日本語」での言葉掛けや配慮した関わり方を身に付けた。

測定指標アンケート

1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6
「とても当てはまる」 ←————→ 「全く当てはまらない」

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	愛媛県	学校名	愛媛県立宇和高等学校		
人権課題	ハンセン病患者等	対象学年・ 取り扱った教科等	高校1年生・ ホームルーム活動	時数等	3時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の無知や無関心による偏見や差別をなくすために、一人一人がどのように行動することが必要なかを考えさせる。 ・差別を受けてきた人たちの思いに共感し、一人一人が差別解消に主体的に取り組もうとする態度を身に付けさせる。 				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンセン病問題の基本的な事柄や歴史的背景について理解する。（1時間） ・ハンセン病回復者である地元西予市出身の詩人、塔和子さんの生涯を通して、厳しい差別の現状を知るとともに、塔さんが大切にしていたものについて考える。（1時間） ・偏見や差別をなくしていくために自分たちにできることを考える。（1時間） 				
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・地元広報『せいよ』を活用し、塔和子さん本人や家族、地域の人々の言葉からハンセン病への偏見や差別によって奪われたものについて自分事として考えさせた。 ・塔和子さんの作品を読み味わうことを通して、塔和子さんの心情を考えさせた。 ・分校の学習と連携し、地元で伝わるハンセン病に関わる物語を人権劇にした動画を視聴させ、地域でのハンセン病との関わりについて考えさせた。 ・人権劇に出演した分校生と、手紙を通して交流し、ハンセン病に関する知識を深め合わせた。 				

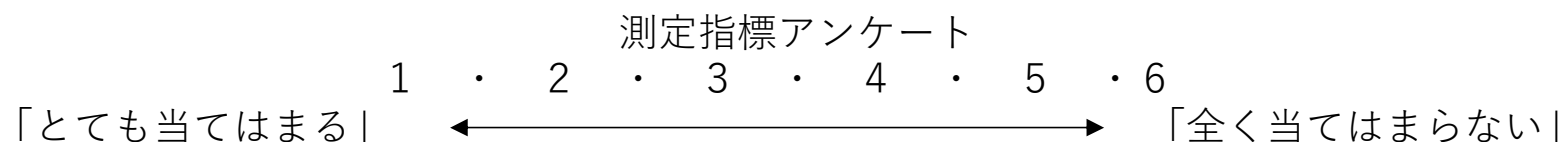
令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

ハンセン病回復者について学んだことをポスターにまとめて学園祭で展示した。

事業成果

- ・ 知識的側面：「ハンセン病について知っている」
事業開始時：4.5 → 事業終了間際：3.4
【生徒変容の分析】
ハンセン病への無知が生んだ差別について、歴史や現状に関する知識が深まった。
- ・ 価値・態度的側面：「様々な価値観を尊重しようとする態度を身に付けていると思う」
事業開始時：1.8 → 事業終了間際：1.8
【生徒変容の分析】
被差別の立場に立って考える活動を通して、他者の価値を感知する感覚が磨かれつつある。
- ・ 技能的側面：「相手の立場に立って物事を考えることができると思う」
事業開始時：1.9 → 事業終了間際：1.6
【生徒変容の分析】
他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性が高まった。



令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	愛媛県	学校名	愛媛県立宇和高等学校		
人権課題	インターネットによる 人権侵害	対象学年・ 取り扱った教科等	高校1年生・情報	時数等	4時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの特性である「公開性」、「記録性」、「信憑性」を理解させるとともに、インターネットを利用するとき大切だと思うことを話し合うことを通じて、情報モラルについて理解を深めさせる。 ・インターネットによる人権侵害に対して自分たちができることを話し合い、意思決定をする取組を通じて、偏見・差別を許さない態度の育成させる。 ・インターネットによる人権侵害への対応・啓発活動をしている機関の取組について理解させる。 				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのSNSの利用の様子について振り返り、SNSを利用することによって広がったコミュニケーションの輪、SNSが抱えている課題について詳しく調べる。（2時間） ・文部科学省の情報モラル啓発動画で課題を確認し、SNSのシミュレーターを利用して、自分たちにできること考える。（2時間） 				
工夫した点	<p>(指導上の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの際に、SNSのマイナス面だけでなく、プラスの面に目を向けて意見が出るように注意した。 ・SNSのシミュレーターを利用して、SNSで発生するトラブルを体験させる。 ・インターネットによる人権侵害の相談窓口などを確認する。 				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

ホームルーム活動の「学校生活と携帯電話」において、SNSの使い方やモラルについて考えさせた。

事業成果

- ・ 知的側面：「インターネットの特性や情報モラルについて理解している」
【生徒変容の分析】
インターネットの特性について理解を深めるとともに、インターネット上の問題に対して、人権を守り、擁護する機関への知識を得ることができた。
- ・ 価値・態度的側面：「インターネットによる人権侵害に対して、自分たちにできることを考えることができる」
【生徒変容の分析】
自己自身の行為に責任を負う意志や態度を育成できた。
- ・ 技能的側面：「インターネット上において自他の人権を守る方法を身に付けている」
【生徒変容の分析】
適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能を身に付けた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・指定都市名	愛媛県		学校名	愛媛県立宇和高等学校	
人権課題	性的指向、性自認	対象学年・取り扱った教科等	高校1年生・ホームルーム活動	時数等	1時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な性の在り方について理解させる。 ・身体的にも、精神的にも、社会的にも本人の意思が尊重され、自分らしく生きるために必要なことは何かを考えさせる。 				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な性の在り方について理解するとともに、性的マイノリティ当事者の抱える困難やその原因について考える。 ・自分のからだに関することを自分自身で決められる権利（「性と生殖に関する権利」）についても学習し、一人一人が自分らしく生きるためにできることを考える。 				
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・性的指向・性自認（SOGI）の概念について理解させ、具体的な場面を想定した班での話し合い活動等を通して性的マイノリティ当事者の抱える問題を自分のこととして考えさせる。 ・事前に「アンコンシャス・バイアス」に関するセルフチェックシートを行い、自分の認識を客観的に把握させる。 ・性的マイノリティの人々が直面している困難等について、どのような配慮が必要か考えさせるとともに、全ての人々の意思が尊重され、自分らしく生きることのできる共生社会の実現に向けて自分にできることを考えさせる。 				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

家庭科の授業を通して、性別に捉われることなく誰もが自分らしく生きられる社会の実現のために必要な配慮について学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：「アンコンシャス・バイアスを理解している」
事業開始時：2.1 → 事業終了間際：1.5
【生徒変容の分析】
アンコンシャス・バイアスや無意識の思い込みに関する理解が深まった。
- ・ 価値・態度的側面：「多様性を認め合う社会の実現のために何をすべきか考えることができると思う」
事業開始時：3.0 → 事業終了間際：1.9
【生徒変容の分析】
性的指向や性自認性は人によって様々で、一人一人を尊重しようとする態度が身に付いた。
- ・ 技能的側面：「お互いの相違を認め、受け入れることができると思う」
事業開始時：2.2 → 事業終了間際：1.8
【生徒変容の分析】
性に関わる偏見や差別に気付き、アウトティングの禁止など配慮した関わり方を身に付けた。

測定指標アンケート

1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6
「とても当てはまる」 ← → 「全く当てはまらない」

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

愛媛県

学校名

愛媛県立宇和高等学校

人権課題

その他（アンネのバラ
をめぐる平和学習）対象学年・
取り扱った教科等高校1年生・
ホームルーム活動

時数等

1時間

目標・人権教
育のねらい

- ・「アンネのバラ」にまつわる歴史的事象や背景について学ぶことを通して、人権尊重や平和への意識を高めさせる。
- ・「アンネのバラ」に込められた願いや彼女の生涯を知ることを通して、自分たちに何ができるか、今後どのように生きるべきかを考えさせる。

実施した内容

- ・「アンネのバラ」が、本校の「平和」と「人権」のシンボルとして持ち込まれた経緯を理解する。
- ・アンネ・フランクの生涯を知り、アンネの日記や「アンネのバラ」に込められた思いや願いを感じることを通して、自分たちに何ができるか、今後どのように生きるべきかを考える。

工夫した点

- ・生徒たちに「アンネのバラ」をより強く印象付けるため、「アンネのバラ」が植えられている農場バラ園近くの青空教室で実施した。
- ・現在も世界で戦争が続いていることを導入で取り上げ、「平和」の尊さについて自分事として受け止められるようにした。
- ・本校「アンネのバラをめぐる平和学習」の歴史について、アンネのバラを接木した元本校教諭から聞き取りを行うとともに、当日もゲストティーチャーとして招いた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

農業の専門科目「農業と環境」において、命の尊さと栽培管理について学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：「すべての人が大切にされなくてはならない」
事業開始時：96%⇒事業終了間際：100%
【生徒変容の分析】
クラスの中だけでも様々な考えがありその多様性に対して戸惑うことが多い生徒も多かったが、事業後はクラスの中のいろいろな考えを受け入れ、取り組む姿が見られるようになった。
- ・ 価値・態度的側面：「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある」
事業開始時：60%⇒事業終了間際：96%
【生徒変容の分析】
自分の行動や言動が消極的で、世の中のために何ができるか考えたことがある生徒は少なかったが、事業後は自ら率先して自分の役割や責任を果たしながら授業や実習等に取り組む生徒が増えた。
- ・ 技能的側面：「人が困っているときは、進んで助けることができる」
事業開始時：82%⇒事業終了間際：100%
【生徒変容の分析】
クラスの中で勉強が苦手な生徒、運動が苦手な生徒等様々な中で、声を掛けて助け合う姿が、事業後は幾度となく見られるようになった。